

RPPC メールマガジン 第 838 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 9 月 2 日発行）

■ 事務局からのお知らせ

第 2 回 広報部会を開催します。

日時：9 月 8 日（火）15:00～16:00

場所：みなと総合研究財団 3 階（実会議・WEB 会議併用）

■ 先週・今週の報道発表

令和 2 年度土壌汚染対策セミナーの開催について【令和 2 年 8 月 28 日環境省発表】

～詳細については下記 URL をご参照ください～

<http://www.env.go.jp/press/108358.html>

■ リサイクルポートに関連する最新の情報

1. RSO フォーラム開催 高田港湾局長が「水素社会を港湾がリード」と講演

非営利活動法人リサイクルソリューション（RSO、山縣宣彦会長）は 8 月 25 日、講師に高田昌行国土交通省港湾局長を迎え令和 2 年度第 1 回フォーラムを開催した。高田局長は、コロナ禍の下での今後の港湾戦略の在り方をテーマに「みなとが紡ぐ日本の未来」と題して講演した。

この中で高田局長は、水素エネルギーの特質とその活用にあたって港湾の役割の重要性を指摘。具体化が進む洋上風力電源とリンクさせ、既存工業集積港湾等の資源を水素社会のための拠点として活用することで、我が国産業の活性化、国際競争力強化につなげていきたいとの考えを示した。港湾を核に水素エネルギーと洋上風力発電を連携させることで、競争力のあるエネルギー確保が可能になるという新しい港湾機能への期待を話した。

-----  
2. 港湾局、港湾インフラ情報電子化へWG 設置 データ連携基盤の構築へ

国土交通省港湾局はこのほど、港湾の電子化（サイバーポート）推進委員会の下に新たに「サイバーポート検討WG（港湾管理分野）」、「サイバーポート検討WG（港湾インフラ分野）」の 2 つのワーキンググループを設置し、WEB 方式で初会合を開催した。両分野の港湾関連データ連携基盤の基本仕様等を年度内にとりまとめ、来年度からシステム構築に着手する方針。

データ連携基盤については、先行して港湾物流分野に関する検討を推進しており、民間事業者間の手続きを電子化する基盤を今年度中に構築し、来年 4 月から運用を開始する予定。

今回設置した2つのWGのうち、港湾管理分野のWGでは管理行政手続き、また利用情報との連携について検討することとしている。

---

### 3.舞鶴港、上安久線道路附帯施設としてSCP地盤改良工手続き

近畿地方整備局舞鶴港湾事務所は、舞鶴港和田地区臨港道路（上安久線）附帯施設整備として、和田地区ターミナルの北側隣接部に潜堤構造の土砂処分場を確保することにしており、このほど同潜堤基礎となる海上地盤改良工事の手続きに入った。

同潜堤はマイナス14㍍岸壁の法線延長上の背後約24㍍の位置に設ける。地盤改良は長手方向約156㍍、改良幅約17㍍、改良深さは水深12㍍～同24㍍の範囲をSCPによる改良率25%以上で合計300本打設する。工期は令和3年1月半ばまで、その後に捨石による潜堤を整備し、土砂の受入れ先とする。整備する潜堤の背後には京都府が護岸を整備済みで、土砂は潜堤と背後護岸の間に投入する。受入れ容量は約1万5000立方㍍程度を見込んでいる。

舞鶴港和田地区臨港道路「上安久線」は、既設の臨港道「和田下福井線」から分岐し山岳部を切盛土して西舞鶴道路に接続する路線で、分岐接続部は延長35㍍のPC単純ポストテンションT桁橋、そこからは山岳部の切盛土による平面道路約330㍍になり、その後は国道27号に繋がる高架橋になる。高架橋は橋長約144㍍鋼4径間連続非合成箱桁。

同臨港道路整備では、地元等との調整が整った区間から整備着手していくことにしており、今年度はその初弾として、高架橋のA1橋台を対象に手続きを進めて来ている。

A1橋台では掘削土砂は発生しないが、現在は関係者と協議中ながら来年度以降、次のステップとしてA2橋台の施工を予定しており、同橋台工事で土砂が発生するため、今回地盤改良手続きに入った附帯施設の土砂処分場に投入する。

---

### 4.秋田県、秋田港・能代港を強化。国への提案・要望書

秋田県は「国の施策・予算に関する提案・要望書」の中で環日本海交流や地域の拠点となる秋田港等の整備促進を盛り込んでいる。

提案・要望の内容は①一般海域における洋上風力発電の導入促進に向け、秋田県沖を「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」の促進区域に指定し、基地港となる能代港、秋田港の機能強化を支援。

②秋田港、能代港において通年で安定した船舶の入港を可能とするため、防波堤の整備等を促進。

③秋田港、船川港、能代港における施設改良（岸壁、船揚場、防波堤）について整備に必要な予算を確保。

④新型コロナウイルス感染症終息後におけるクルーズ船の寄港回復に向けて、クルーズ船社等への積極的な働きかけとともに、秋田港本港地区における受入環境の整備に必要な予算を確保し支援。

【港湾空港タイムス 08 月 31 日号から編集】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: [rppc\\_jimukyoku@wave.or.jp](mailto:rppc_jimukyoku@wave.or.jp)

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください